



## 食包協会報第 181号 (2024年1月号) ご案内

このたびの「令和6年能登半島地震」により被害にあわれた皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧を、心よりお祈り申し上げます。

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。このたび181号(2024年1月号)を公開いたしました。今号では3編の記事を掲載しております。

1つ目の記事では、弊協会の石谷孝佑理事長に「2024年の新年のご挨拶」をご執筆いただきました。弊協会では2022年の年初から、さまざまなイベントをウェブ開催し、会報やホームページ等による情報発信の体制を整えており、みなさまのご要望お聞きしつつ、本年も事業活動復活とさらなる充実を図ってまいりますので、何卒ご支援の程お願い申し上げます。また、ご協力いただいております講師の先生方のご尽力と会員皆様のご助力につきまして、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

2つ目の記事では、弊協会の第6回Next Package実行委員長でもあるTOPPANホールディングス株式会社の大日方野枝氏に「第6回Next Package2023～人と技術の交流が未来を包む～を振り返って」と題して執筆いただきました。Next Package展は昨年より対面形式に戻し、出展企業、来場者の皆様が直接交流できる場として活用いただいておりますが、今年度は包装関連の研究室を有する学生のみなさまにも来場いただき、次世代の包装分野を担う学生さんにとっても学びの場となりました。

3つ目の記事では、弊協会の評議員代表でもある日本女子大学 家政学部 食物学科 食品学・食品包装学研究室 准教授の北澤 裕明氏に「大学で食品包装研究を開始するにあたって」と題してご執筆いただきました。歴史と伝統のある日本女子大学家政学部食物学科に「食品学・食品包装学研究室」が誕生するに至る経緯を、貴重な視点で紹介いただいております。「名前に『食品包装』が入っている常設の研究室を有する四年制大学は他にはなかった」ことが、この分野の慢性的な課題であると感じ、自ら行動される、その行動力には本当に敬服いたします。

弊協会広報活動委員会では、これからも魅力ある記事の発信に努めていきたいと考えております。引き続きご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受けて下さいました石谷様、大日方様、北澤様に心から厚く御礼申し上げます。

2023年1月22日  
広報委員 吉田恵理